

希学園 第395回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第395回公開テスト 小4算数 解説動画(2025年4月13日実施)	https://vimeo.com/1074238283/23f496c67b

1

(1)	9 8 7 6	(2)	1 6 3 0	(3)	7 1 0	(4)	6 0 0
(5)	1 3	(6)	6 3 5	(7)	8	(8)	8 1
(9)	$\frac{1\ 3}{3\ 1}$	(10)	㊦ 2 (L)	㊧ 4 2 0 (mL)	(11)	1 7 7 0 (m)	
(12)	1 2	(13)	8 (きやく)	(14)	8 4 (枚)	(15)	火 (曜日)

(10) ; 完答)

2

(1)	2 1	(2)	3 5 番目	(3)	4 8
-----	-----	-----	--------	-----	-----

3

(1)	9 番目	(2)	2 1 番目
-----	------	-----	--------

4

(1)	3 6 cm	(2)	4 4 cm	(3)	3 2 cm
-----	--------	-----	--------	-----	--------

5

(1)	8 個	(2)	1 4 個
-----	-----	-----	-------

(配点) 各4点×25

1

- (3) $728 - 37 + 82 - 63 = 810 - 100 = 710$
- (4) $25 \times 24 = 25 \times 4 \times 6 = 100 \times 6 = 600$
- (8) $\square \div 13 = 6 \text{ あまり } 3$
 $\rightarrow \square = 13 \times 6 + 3 = 81$
- (10) $2 \text{ L } 9 \text{ dL} + \square \text{ L } \square \text{ mL} = 5 \text{ L } 320 \text{ mL}$
 $\rightarrow \square \text{ L } \square \text{ mL} = 5320 \text{ mL} - 2900 \text{ mL}$
 $= 2420 \text{ mL} = 2 \text{ L } 420 \text{ mL}$
- (11) $5 \text{ km } 314 \text{ m} - \square \text{ m} + 456 \text{ m} = 4 \text{ km}$
 $5314 \text{ m} + 456 \text{ m} - \square \text{ m} = 4000 \text{ m}$
 $\rightarrow \square \text{ m} = 5770 \text{ m} - 4000 \text{ m} = 1770 \text{ m}$
- (12) $A - B = 20$, BがAの半分より, $A = 40$, $B = 20$
 よって, $C = 32 - 20 = 12$
- (13) $50 \div 7 = 7 \text{ (きやく) あまり } 1 \text{ (人)}$
 あまりの1人が座る長いすも必要なので,
 $7 + 1 = 8 \text{ (きやく)}$
- (14) たて7 cm, 横6 cmの長方形には, 1辺の長さが1 cmの正方形が, $7 \times 6 = 42 \text{ (枚)}$ 入る。等しい辺が1 cmの直角二等辺三角形は, この正方形を2等分してできるので, $42 \times 2 = 84 \text{ (枚)}$
- (15) 1週間は7日なので, 10日は3日, 15日は1日, 20日は6日, 25日は4日, 30日は2日と同じ曜日。よって, 1日から6日までの6日間が月曜日ではないことがわかるので, 7日が月曜日。 $\rightarrow$ 1日は火曜日。

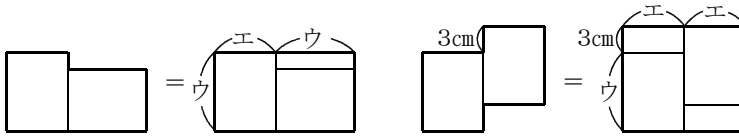
2

- 4個ごとにグループ分けすると, 各グループの数は順に, グループ番号の1倍, 2倍, 3倍, 4倍である。
- (1) $27 \div 4 = 6 \text{ (グループ) あまり } 3 \text{ (個)}$ なので, 7グループ目の3個目 $\rightarrow 7 \times 3 = 21$
- (2) $27 = 9 \times 3$ より, はじめて出てくるのは, 9グループ目の3個目 $\rightarrow 4 \times 8 + 3 = 35 \text{ (番目)}$
- (3) 4回出てくる数は, 4でも3でも2でも1でも割りきれ数。よって順に, 12, 24, 36, 48, ……となる。

3

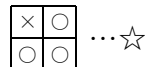
- (1) A, B, C, D以外の生徒は, $25 - 4 = 21 \text{ (人)}$
 4人それぞれの間にならぶ人数を□人とする,
 $\square \times 3 = 21$ より, $\square = 21 \div 3 = 7 \text{ (人)}$
 よってBは, $1 + 7 + 1 = 9 \text{ (番目)}$
- (2) CとDの間にならぶ人数を△人とする, BとCの間は, $\triangle \times 2 \text{ (人)}$, AとBの間は, $\triangle \times 4 \text{ (人)}$ となるので, $\triangle \times (1 + 2 + 4) = 21 \rightarrow \triangle = 21 \div 7 = 3 \text{ (人)}$
 よってCは, $1 + 3 \times 4 + 1 + 3 \times 2 + 1 = 21 \text{ (番目)}$

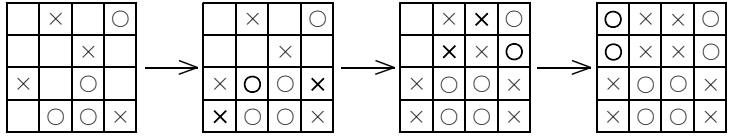
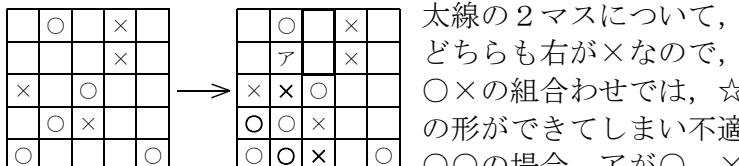
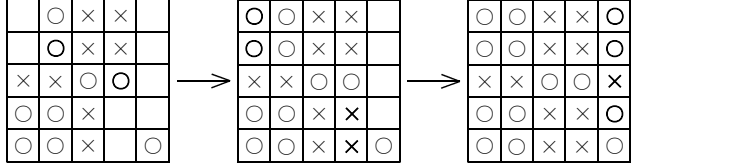
4

- (1) たて; 8 cm, 横; $5 \times 2 = 10 \text{ (cm)}$ より,
 $(8 + 10) \times 2 = 36 \text{ (cm)}$
- (2) 右の図のように長さを決める。
 図2; $\text{ア} + \text{イ} \times 2 = 64 \div 2 = 32 \text{ (cm)}$
 図3; $\text{ア} \times 2 + \text{イ} = 68 \div 2 = 34 \text{ (cm)}$
 $\rightarrow \text{ア} \times 3 + \text{イ} \times 3 = 32 + 34 = 66 \text{ (cm)}$
 これより, $\text{ア} + \text{イ} = 66 \div 3 = 22 \text{ (cm)}$
 となるので, B 1枚のまわりの長さは, $22 \times 2 = 44 \text{ (cm)}$
- (3) 
- 上の図のように, わかりやすい形に直して考える。
 図4; $\text{ウ} \times 2 + \text{エ} = 50 \div 2 = 25 \text{ (cm)}$
 図5; $\text{ウ} + 3 + \text{エ} \times 2 = 52 \div 2 = 26 \text{ (cm)}$
 $\rightarrow \text{ウ} \times 3 + \text{エ} \times 3 = 25 + 26 - 3 = 48 \text{ (cm)}$
 これより, $\text{ウ} + \text{エ} = 48 \div 3 = 16 \text{ (cm)}$ となるので, C 1枚のまわりの長さは, $16 \times 2 = 32 \text{ (cm)}$

5

条件より, 右の図のような形ができないように注意して, 記号を入れていく。



- (1) 
 以上より, 8個。
- (2) 
 太線の2マスについて, どちらも右が×なので, ○×の組み合わせでは, ☆の形ができてしまい不適。○○の場合, アが○, ×のどちらであったとしても, ☆の形ができてしまい不適。よって, 太線の2マスは両方とも×になる必要がある。
- 
 以上より, 14個。

配点; 各4点×25